

令和6年度お茶の水女子大学経営協議会〔第3回〕議事録

日 時：令和7年1月21日（火）15：00～17：00

出席者：（学外委員）五十嵐委員、河村委員、小坂委員、小安委員、佐藤委員、篠塚委員、豊田委員

（学内委員）佐々木学長、加藤理事、新井理事、石井理事、坂元理事、谷理事、赤松副学長、太田副学長、福本副学長（事務総括）

（陪 席）宮井監事、中野監事

曹副理事、斎藤副理事、山田副理事、

新名文教育学部長、横川理学部長、飯田生活科学部長、大瀧共創工学部長

安成大学院人間文化創成科学研究科長

I. 議事録（案）の確認

記録内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

II. 学長報告

1. 学長選考・監察会議（令和6年11月22日）について

五十嵐学長選考・監察会議議長より、次期学長候補者について、11月13日意向投票及び11月22日学長選考・監察会議を経て、佐々木泰子現学長が選出されたことの報告があった。任期は2025年（令和7年）4月1日～2027（令和9）年3月31日の2年間であることの説明があった。

2. 令和7年度（新執行部）の体制について

資料に基づき、役員等を選任したことの報告があった。

III. 審議事項

1. 令和7年度学内予算編成方針（案）について

加藤理事より、資料に基づき、中期目標・中期計画の達成に向けて、教育改革や研究力の強化などの各事業をより一層推進するための予算を配分すること、加えて、コンピテンシーの戦略的育成やジェンダード・イノベーションの発展・普及など、本学のミッション実現構想における戦略事業に対して、事業の進捗・評価に応じた重点的配分を行うこと、また既存事業の規模の見直しや外部資金の積極的な活用により、戦略的かつ持続可能な運営を目指す予算編成を行うことの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2. 令和7年度資金運用計画書（案）について

加藤理事より、資料に基づき、令和6年度と同様に、余裕資金を原資として、安全性と流動性の確保を踏まえた資金運用計画（案）としたことの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

3. 令和6年人事院勧告等を踏まえた本学の給与制度の見直し及び見直しに伴う関連規則の一部改正について

加藤理事より、資料に基づき、令和6年人事院勧告を踏まえて、令和6年12月17日に国家公務員の一般職の職員の給与に関する法律等が一部改正され、本年の給与改定においては月例給やボーナスについて令和6年4月に遡って引き上げがなされており、本学としても本改正や民間の給与水準等を踏まえて、役員、俸給表職員、及び職員就業規則第4条第4項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の給与支給基準の見直しを令和6年4月に遡って行うための改正であることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

また、本見直しにかかる予算は、本年の補正予算において既に計上していること、国家公務員の給与改定のうち令和7年4月改定部分については、次回の経営協議会で審議事項とする予定であることについても補足があった。

4. 第4期中期計画の変更について

坂元理事より、資料に基づき、令和8年度に大学院博士前期課程に「共創工学専攻（仮称）」を新設することに伴い、第4期中期計画を変更する必要があることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

篠塚委員より、評価指標として「新カリキュラムに対する学生の評価として令和8年度より毎年度実施するアンケート調査における総合的満足度が、80%以上」としたことについて、そのベースとなるような学生の評価アンケートなどはあるか、という質問があり、新井理事より、前期の学部生のアンケートでは、共創工学部と他学部での評価に大きな差はなかったが、大学院はより個別的な指導となり、高い満足度を確保できることが見込まれるため「80%以上」としたことの説明があり、坂元理事からは、積極性を示すためにそのような数値としたいとの補足があった。

IV. 報告事項

1. 令和7年度運営費交付金内示の概要について

加藤理事より、資料に基づき、内示を受けた令和7年度の運営費交付金の概要についての報告があった。「共通政策課題分」として学内情報基盤システム等の整備に必要な経費として3,223万円が配分されたこと、施設整備費補助事業として（大塚）ライフライン再生（通信設備）、（大塚（附小））屋内体育施設改修、（大塚（附中））基幹・環境整備（空調設備）の3事業が選定されたことの説明があった。

2. 令和5事業年度決算剰余金の繰越承認について

加藤理事より、資料に基づき、令和5事業年度の損益計算書により発生した利益のうち、経営努力の結果生じた現金の裏付けのある約1,200万円について、翌事業年度以降に使用できる剰余金として文部科学大臣の承認が得られたことの報告があった。

3. 環境報告書2024の公表について

加藤理事より、資料に基づき、環境報告書2024を作成したこと、昨年度と同様に学生に翻訳

を依頼し英語版を作成・公表する予定であること、報告書は本日以降速やかにホームページで公開予定であることの報告があった。

4. JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」の採択について

新井理事より、資料に基づき、次世代研究者挑戦的研究プログラムについて、令和6年12月12日付で国立研究開発法人科学技術振興機構より「採択」の決定通知があったことの報告があり、支援枠数は令和7年度から令和8年度で平均21.5枠（各学年7名程度）であるとの説明があった。

佐藤委員より、SPRING自体は今後存続するかどうかが改めて問われるプロジェクトになってくと思う、との意見があり、「資金を提供した学生がどのような形でその資金を活用して、自分のコンピテンシーを高めて、あるいは就職に結び付けるのか、あるいは研究開発に結び付けるのか。」ということについて、大学がしっかりとフォローアップをすることが全大学の大学院改革をプロモートする上でも非常に大事である、との示唆があった。更に、フォローアップの結果について文科省等に自ら発信していくことがこのプロジェクトを守っていく大きな力になるので、ぜひ力を入れるべきであるとの助言があった。

5. 令和6年度卒業生・修了者の進路状況について

新井理事より、資料に基づき、12月1日時点における本学の学生の就職及び進学などの進路状況について報告があった。

6. その他

（1）令和6年10月～12月における本学の主な活動について

赤松副学長より、資料に基づき報告があった。

V. 意見交換

1. お茶の水女子大学の広報活動への助言

佐々木学長及び赤松副学長より、本学の広報体制及び広報活動について資料に基づき説明があり、本学がどのような広報活動を行っていくべきかについて意見交換を行った。

■学外委員からの主な意見等は以下のとおり。

佐藤委員：お茶大の特色の大きな一つとしては、低学年から大学までの一貫教育があり、そのような意味では、広報活動の対象を大学の活動に絞るともったいないと思う。広報活動の範囲として、低学年教育から大学までの一貫であることの魅力を伝える広報のあり方もあるのではないかと思われる。今後の教育のあり方という観点からすると、大学教育の変革だけではなくて、幼児教育あるいは中・高等教育の考え方そのものを変えていかなければいけない。その点で一貫教育を持っている大学はそうした改革がやりやすいのではないかと。学校法人としてのミッションとして、幼児教育、中等教育の改革に積極的に携わっていることが学校の魅力につながっているはずなので、そういった広報活動もあるのかと思われる。保護者としてもそうした時代の変化に基づいて、中学・高校から例えば理系の教育をすることや、あるいは総合的な教育をするということが、お茶大全体の魅力を強めているとい

うことであるとするならば、そうしたところも含めた広報の見せ方もあるのかと感じた。

小安委員：広報は何を対象にするかが非常に重要で、お茶の水女子大学の現状はどちらかという学生募集向けであるように思われるため、もっと広く応援団を増やすということをやらなくてはいけないと思う。多様な打ち出し方をして、お茶大と一緒にやったら何か面白いことができるのではないかといろいろな人に思ってもらえるような動きになる広報がこれからは本当に大事ではないか。そのような観点でお茶大の魅力がどこにあるのかについて、学生の目線だけではなくて、もっと社会から見た目線で打ち出すことをしたほうがいいのではないか。

篠塚委員：紙ベースの GAZETTE はどの程度の部数を作成し、どのようなところに配っているのか？

赤松副学長：4月号については約4,000～5000部、オープンキャンパスのある7月号は約8,000部、11月号は6,000部を発行し、本学に置いているもの、来客に渡すもの以外には、入学式のときに新入生に配付している。

篠塚委員：保育園や幼稚園からある複合的な学園のため、文京区や地元には保育所も含めて、何か広報ができるような仕組みを考えていただきたい。地元の人たちを巻き込むような形で広報するには、1～2枚のパンフレットでも紙ベースで渡すなどがよい。また、教員や企業の方など、他の地域からの来訪者が予約なしでも気軽に説明を聞くことができるよう学生や留学生に対応してもらうなど、学生以外を対象とした見学会などのバリエーションを考えるとよいのではないか。さらに、海外の方や、企業が大学とどのようなことができるのか検討する際の情報はホームページで得るものと考えられる。大学の学生数、学部、教員数、留学生について等、英語版の簡単なデータにアクセスしやすいようにするとよい。

河村委員：限られた人員・予算の中でどのように取り組むかという観点について、自身の体験から述べると、一つは、コンテンツに合った媒体とタイミングが必要ではないかということである。前所属先の独立行政法人日本芸術文化振興会では、感染症の問題が起き政府方針で劇場を閉めたときに、無観客収録をした歌舞伎の公演を無償でオンライン配信したところメディアでも取り上げられ、YouTube チャンネル登録者が急増した。それを逆に理論化すると、本学の場合、インスタグラムにぴったり合ったようなコンテンツを、しかも、タイムリーに出し、ニュースリリースも付ければ、他のメディアからお茶大のインスタグラムへの関心につながるのではないか。もう一つが、他の人の力をいかに借りるかということである。例えばオープンキャンパスで、ここがお茶大の最も美しく映る場所だということに150周年のロゴなどを設置したフォトスポットを設けてSNSでの発信を誘導すると、学外者からの発信も期待できるのではないか。また、ステークホルダーは、ひょっとすると発信してくれる人にもなり得ると思う。視察や共同研究の前触れでお茶大を訪問する方に依頼し、その方が持つメディアからお茶大について発信をしてもらったり、今後学生アンバサダーに留学生が着任したら、母国語でお茶大のいい面をSNSで発信してもらうのもよいのではないか。

小坂委員：広報活動の資料は、非常に簡潔で分かりやすく、さすが広報推進室の作成だと感心した。特に良い学生を集めるという視点で述べると、「学生から見た企業の就職人気ランキング」において、どの企業を学生が選んでいるかを分析すると保護者、特に母親の影響が大きい

ことがわかる。そこから考え、もう少し保護者、特に母親をターゲットにしていくのはどうかと感じた。受験生の母親と考えられる 40～50 代あたりをターゲットに、積極的に露出度を上げるような手を打ったらどうか。また、非常に突飛なアイデアだが、お茶大は大変素晴らしい統合報告書を作っているので、日本経済新聞で毎年実施されている「日経統合報告書アワード」に統合報告書を出してみてもどうか。日本経済新聞などで大きく取り上げられ無料で広報できるので、そのような選択肢もあるかと思う。

加藤理事：統合報告書を初めて作成したところ好評をいただいた。隔年での作成を検討しているため、次は「日経統合報告書アワード」にぜひチャレンジしたい。

石井理事：母親という点で思い浮かんだことだが、以前、附属幼稚園の保護者を対象にした講演会で、IT を家庭で使うときにどのようにすればいいのか、という題目で講演をした際に園児の母親が 100 名以上も集まり、教育への関心が高いことを感じた。私たち研究者がやっている研究をそこで話すことも、広報ではないが、ある意味コミュニケーションの手段でもあるかと思われる。

加藤理事：本学では大学のミッションとして理系分野の女性の裾野を広げるために、女子中高生の理系の進路選択の支援ということで、中高生対象の講演会やセミナーを多数開催しており、中学生の対面のイベントには保護者が同行してくる。そのため、生徒が実験をしたり講義を聴いている間は保護者も一緒に聴く、生徒がワークショップや院生と懇談会をしている間は保護者は理系進学や将来についてフリーディスカッションするなど、保護者の啓発にも努めている。

五十嵐委員：資料の 3 ページの「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場」というところが原点である。いろいろなターゲット層がある中で、例えば受験生、女子中高生が持っている夢とは何なのか。それに社会とお茶大がどう関わっているのかというところが原点だと思う。ターゲット層を絞る以前に、本学がいろいろな取組みをしている中で何が心を打つのかとか、共感するのか、といったところを深く掘り下げてみるとよりよい広報ができるのではないか。

豊田委員：これまでの意見を聞き、自身の中で矛盾した気持ちがあり、ステークホルダーが多く、あれもやらなくてはいけない、これもやらなくてはいけないというと、いまひとつのステークホルダーを重視して、どういったメッセージを出すのかという整理が必要かと思う一方で、あまり絞ってしまうと、実は違うメッセージが多く読まれたり、反応があったりするということもあるので、ここは各委員の意見にあったように、広報担当者が大学の魅力は何なのかということをもう一回見直して、広くポストすることがよいと思われる。また、インスタグラムの開始は大変よいことだと思う。どういったことが魅力的に映るのか、どういったポストが一番リアクションがあったのかは、効果につながるので、一度分析をするとよいのではないか。どういったポスト、投稿といったものが一番反応があったか分かっていたら知りたい。

企画戦略課（広報担当）：インスタグラムでよく見られているものは、お茶大の構内の風景が今のところ順調に「いいね」がついている。学内の風景、ふとした木々の様子や、花が結構咲いているので、そういったものに「いいね」がついていることが多いと思われる。

豊田委員：歴史のある古いキャンパスなので、何か歴史と結びつくフォトスポットを作るなど、どこをターゲットにするかはインスタグラムでは結構大事になると思うが、思わぬ反応なども楽しみながらやるとよいのではないか。地元も一つのステークホルダーだという話があったが、文京区は由緒ある建物やきれいな風景が多くあるので、その一角の代表的なお茶の水の風景といったものを、歴史やさらにどういった人物がいたかということも分かる形で紹介を兼ねながらやると楽しく学生も参加できると思うので検討してはどうか。

佐々木学長：本当にさまざまのご意見やご助言をいただき感謝する。広報活動の参考にさせていただきたい。

VI. その他

1. 令和6年度卒業式・大学院学位記授与式

佐々木学長より、令和6年度卒業式・大学院学位記授与式について、案内があった。

2. 令和7年度 主要行事予定表（案）〈令和7年1月21日時点〉について

佐々木学長より、現時点での令和7年度主要行事予定表（案）について、資料に基づき説明があり、次年度経営協議会についてご予定いただきたい旨を連絡した。

- 佐々木学長より、令和6年度経営協議会開催予定について、資料に基づき説明があり、次回開催は令和7年3月18日（水）であることを確認した。

以 上